

Q001 ○ × | 試験時間

消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の試験方法では乙種1時間45分、甲種特類以外は3時間15分。

要点：試験時間

Q002 ○ × | 合格基準

消防設備士試験は、筆記全体で60%以上なら、実技が0点でも合格できる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。

要点：合格基準

Q003 4択 | 定義

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：3. 工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。

解説：消防設備士の対象は消防用設備等または特殊消防用設備等。

要点：定義

Q004 ○ × | 維持管理

消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：消防用設備等は火災時に機能することが前提であり、点検・整備の対象となる。

要点：維持管理

Q005 ○ × | 出題範囲

消防設備士乙種では、法令分野は一切出題されない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士の学習では、法令、基礎知識、構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。

要点：出題範囲

Q006 4択 | 法令

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認6）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。

答え・解説

正答：4. 消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。

解説：乙種筆記の消防関係法令は、共通6問と類別4問に区分される。

要点：法令

Q007 ○ × | 法令 / 問題数

消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の問題数表では、乙種の消防関係法令は共通6問、類別4問。

要点：法令 / 問題数

Q008 ○ × | 問題数

消防設備士乙種では、筆記30問の中に実技5問が含まれる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。

要点：問題数

Q009 4択 | 免除

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認9）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：1. 消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

解説：公式案内では、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

要点：免除

Q010 ○ × | 受験手続

受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、受験票に顔写真を貼付していないと受験できないとされる。

要点：受験手続

Q011 ○ × | 受験

消防設備士試験は、東京の1会場でしか受験できない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。

要点：受験

Q012 4択 | 受験

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認12）（類似論点確認 2）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：3. 消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。

解説：公式案内では全国どこの試験会場でも受験できるとされる。

要点：受験

Q013 ○ × | 手数料

消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：2026年6月確認時点の公式案内では、乙種4,400円。改定があり得るため公開時は再確認する。

要点：手数料

Q014 ○ × | 合格発表

消防設備士試験の結果通知書には、合否だけが記載され正答率は一切示されない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の結果通知書には、合否と正答率が記載される。

要点：合格発表

Q015 4択 | 受験手続

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認15）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。
2. 消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類を何度でも受験できる。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：1. 消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。

解説：公式案内では、同一試験日に同じ種類を2回以上受験できないとされる。

要点：受験手続

Q016 ○ × | 日程

消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：日程・受付期間は支部ごとに異なるため、受験地ごとの確認が必要。

要点：日程

Q017 ○ × | 基礎知識

消防設備士乙種の基礎的知識は、すべての類で数学だけが出題される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の基礎的知識は、類に応じて電気または機械の内容が出題される。

要点：基礎知識

Q018 4択 | 鑑別

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認18）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけ覚えれば機能の理解は不要である。
3. 消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：3. 消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。

解説：鑑別等では名称・用途・異常判断が問われるため、機能理解が必要。

要点：鑑別

Q019 ○ × | 安全

消防用設備等の不良を放置すると、火災時の早期発見・初期対応が遅れるおそれがある。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：点検・整備の目的は、火災時に設備が確実に働く状態を維持すること。

要点：安全

Q020 ○ × | 免状 / 業務範囲

消防設備士乙種は、工事・整備・点検のすべてを甲種と同じ範囲で行える。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士免状には甲種と乙種があり、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検を行える。

要点：免状 / 業務範囲

Q021 4択 | 受験資格

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認21）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種を受験するには、必ず実務経験または指定学科卒業が必要である。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：3. 消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。

解説：甲種には受験資格が必要だが、乙種は受験資格がない。

要点：受験資格

Q022 ○× | 類別

消防設備士免状は類ごとに扱える消防用設備等が限定される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：類ごとに取り扱う設備が限定されるため、目的の類別の免状が必要。

要点：類別

Q023 ○× | 問題数

消防設備士乙種の筆記試験は45問で構成される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の筆記試験は30問で構成される。

要点：問題数

Q024 4択 | 実技

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認24）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。
3. 消防設備士乙種の実技試験は製図2問のみで構成される。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：2. 消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。

解説：乙種の実技は鑑別等5問。製図は甲種の実技に含まれる。

要点：実技

Q025 ○× | 試験方式

消防設備士試験の筆記試験は、全種で四肢択一式のマーク・カード方式で行われる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の試験方法では、筆記はマーク・カードを使う四肢択一式。

要点：試験方式

Q026 ○ × | 実技

消防設備士試験の実技試験は、現場で実際に設備を施工する作業試験である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の実技試験は、写真・イラスト・図面等による記述式で行われる。

要点：実技

Q027 4択 | 試験時間

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認27）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として3時間15分である。

答え・解説

正答：2. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。

解説：公式の試験方法では乙種1時間45分、甲種特類以外は3時間15分。

要点：試験時間

Q028 ○ × | 合格基準

消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：特類以外は筆記と実技の両方で基準を満たす必要がある。

要点：合格基準

Q029 ○ × | 定義

工事整備対象設備等とは、建築物の内装仕上げ材だけを指す。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。

要点：定義

Q030 4択 | 維持管理

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認30）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防用設備等は、一度設置すれば故障していても法令上問題にならない。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。

答え・解説

正答：4. 消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。

解説：消防用設備等は火災時に機能することが前提であり、点検・整備の対象となる。

要点：維持管理

Q031 ○ × | 出題範囲

消防設備士の学習では、法令、基礎知識、構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙種筆記には消防関係法令、基礎的知識、構造・機能・整備が含まれる。

要点：出題範囲

Q032 ○ × | 法令

消防関係法令は、すべての類で完全に同じ内容だけが出題される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。

要点：法令

Q033 4択 | 法令 / 問題数

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認33）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。
2. 消防設備士乙種の消防関係法令は、共通10問のみで類別問題はない。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：1. 消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。

解説：公式の問題数表では、乙種の消防関係法令は共通6問、類別4問。

要点：法令 / 問題数

Q034 ○ × | 問題数

消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：実技は筆記とは別枠で5問。

要点：問題数

Q035 ○ × | 免除

消防設備士試験で一部免除を受けても、試験時間は必ず全員同じである。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

要点：免除

Q036 4択 | 受験手続

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認36）（類似論点確認 2）

1. 受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：1. 受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。

解説：公式案内では、受験票に顔写真を貼付していないと受験できないとされる。

要点：受験手続

Q037 ○ × | 受験

消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：消防設備士試験は全国の中央試験センター・道府県支部で実施される。

要点：受験

Q038 ○ × | 受験

消防設備士試験は、住民票のある都道府県でしか受験できない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。

要点：受験

Q039 4択 | 手数料

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認39）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
2. 消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：2. 消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。

解説：2026年6月確認時点の公式案内では、乙種4,400円。改定があり得るため公開時は再確認する。

要点：手数料

Q040 ○ × | 合格発表

消防設備士試験の結果通知書には、合否と正答率が記載される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、受験者全員に合否と正答率を記載した試験結果通知書を送付するとされる。

要点：合格発表

Q041 ○ × | 受験手続

消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類を何度でも受験できる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。

要点：受験手続

Q042 4択 | 日程

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認42）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：2. 消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。

解説：日程・受付期間は支部ごとに異なるため、受験地ごとの確認が必要。

要点：日程

Q043 ○ × | 基礎知識

消防設備士乙種の基礎的知識は、類に応じて電気または機械の内容が出題される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙4は電気、乙6は機械が中心になる。

要点：基礎知識

Q044 ○ × | 鑑別

消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけ覚えれば機能の理解は不要である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。

要点：鑑別

Q045 4択 | 安全

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認45）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防用設備等の不良を放置すると、火災時の早期発見・初期対応が遅れるおそれがある。
4. 消防用設備等の不良は、火災時の安全性に影響しない。

答え・解説

正答：3. 消防用設備等の不良を放置すると、火災時の早期発見・初期対応が遅れるおそれがある。

解説：点検・整備の目的は、火災時に設備が確実に働く状態を維持すること。

要点：安全

Q046 ○ × | 免状 / 業務範囲

消防設備士免状には甲種と乙種があり、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検を行える。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検と整理される。

要点：免状 / 業務範囲

Q047 ○ × | 受験資格

消防設備士乙種を受験するには、必ず実務経験または指定学科卒業が必要である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。

要点：受験資格

Q048 4択 | 類別

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認48）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状を1種類取得すれば、すべての類の消防用設備等を扱える。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士免状は類ごとに扱える消防用設備等が限定される。

答え・解説

正答：4. 消防設備士免状は類ごとに扱える消防用設備等が限定される。

解説：類ごとに取り扱う設備が限定されるため、目的の類別の免状が必要。

要点：類別

Q049 ○ × | 問題数

消防設備士乙種の筆記試験は30問で構成される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙種の筆記は合計30問。甲種特類以外の甲種は45問。

要点：問題数

Q050 ○ × | 実技

消防設備士乙種の実技試験は製図2問のみで構成される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。

要点：実技

Q051 4択 | 試験方式

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認51）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験の筆記試験は、全種で四肢択一式のマーク・カード方式で行われる。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 消防設備士試験の筆記試験は、全種で四肢択一式のマーク・カード方式で行われる。

解説：公式の試験方法では、筆記はマーク・カードを使う四肢択一式。

要点：試験方式

Q052 ○× | 実技

消防設備士試験の実技試験は、写真・イラスト・図面等による記述式で行われる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：実技は名称・用途・判断などを問う記述式で、現場施工の実演ではない。

要点：実技

Q053 ○× | 試験時間

消防設備士乙種の試験時間は、原則として3時間15分である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。

要点：試験時間

Q054 4択 | 合格基準

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認54）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：2. 消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。

解説：特類以外は筆記と実技の両方で基準を満たす必要がある。

要点：合格基準

Q055 ○× | 定義

工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：消防設備士の対象は消防用設備等または特殊消防用設備等。

要点：定義

Q056

○ × | 維持管理

消防用設備等は、一度設置すれば故障していても法令上問題にならない。
この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。

要点：維持管理

Q057

4択 | 出題範囲

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認57）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士の学習では、法令、基礎知識、構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。
2. 消防設備士乙種では、法令分野は一切出題されない。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：1. 消防設備士の学習では、法令、基礎知識、構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。

解説：乙種筆記には消防関係法令、基礎的知識、構造・機能・整備が含まれる。

要点：出題範囲

Q058

○ × | 法令

消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙種筆記の消防関係法令は、共通6問と類別4問に区分される。

要点：法令

Q059

○ × | 法令 / 問題数

消防設備士乙種の消防関係法令は、共通10問のみで類別問題はない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。

要点：法令 / 問題数

Q060

4択 | 問題数

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認60）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：3. 消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。

解説：実技は筆記とは別枠で5問。

要点：問題数

Q061 ○ × | 免除

消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

要点：免除

Q062 ○ × | 受験手続

受験票に顔写真がなくても、当日の口頭確認だけで必ず受験できる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。

要点：受験手続

Q063 4択 | 受験

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認63）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。

答え・解説

正答：4. 消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。

解説：消防設備士試験は全国の中央試験センター・道府県支部で実施される。

要点：受験

Q064 ○ × | 受験

消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では全国どこの試験会場でも受験できるとされる。

要点：受験

Q065 ○ × | 手数料

消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では無料とされている。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。

要点：手数料

Q066 4択 | 合格発表

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認66）（類似論点確認 2）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士試験の結果通知書には、可否と正答率が記載される。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 消防設備士試験の結果通知書には、可否と正答率が記載される。

解説：公式案内では、受験者全員に可否と正答率を記載した試験結果通知書を送付するとされる。

要点：合格発表

Q067 ○ × | 受験手続

消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、同一試験日に同じ種類を2回以上受験できないとされる。

要点：受験手続

Q068 ○ × | 日程

消防設備士試験の日程と受付期間は、全国で毎回完全に同一である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。

要点：日程

Q069 4択 | 基礎知識

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認69）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消防設備士乙種の基礎的知識は、類に応じて電気または機械の内容が出題される。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：3. 消防設備士乙種の基礎的知識は、類に応じて電気または機械の内容が出題される。

解説：乙4は電気、乙6は機械が中心になる。

要点：基礎知識

Q070 ○ × | 鑑別

消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：鑑別等では名称・用途・異常判断が問われるため、機能理解が必要。

要点：鑑別

Q071 ○ × | 安全

消防用設備等の不良は、火災時の安全性に影響しない。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防用設備等の不良を放置すると、火災時の早期発見・初期対応が遅れるおそれがある。

要点：安全

Q072 4択 | 免状 / 業務範囲

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認72）（類似論点確認 2）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消防設備士免状には甲種と乙種があり、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検を行える。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：3. 消防設備士免状には甲種と乙種があり、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検を行える。

解説：公式案内では、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検と整理される。

要点：免状 / 業務範囲

Q073 ○ × | 受験資格

消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：甲種には受験資格が必要だが、乙種は受験資格がない。

要点：受験資格

Q074 ○ × | 類別

消防設備士免状を1種類取得すれば、すべての類の消防用設備等を扱える。この記述は正しいか。（類似論点確認 2）

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士免状は類ごとに扱える消防用設備等が限定される。

要点：類別

Q075 4択 | 問題数

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認75）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防設備士乙種の筆記試験は30問で構成される。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：3. 消防設備士乙種の筆記試験は30問で構成される。

解説：乙種の筆記は合計30問。甲種特類以外の甲種は45問。

要点：問題数

Q076 ○ × | 実技

消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。この記述は正しいか。
(類似論点確認 2)

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙種の実技は鑑別等5問。製図は甲種の実技に含まれる。

要点：実技

Q077 ○ × | 試験方式

消防設備士試験の筆記試験は、全種で記述式のみで行われる。この記述は正しいか。(類似論点確認 2)

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の筆記試験は、全種で四肢択一式のマーク・カード方式で行われる。

要点：試験方式

Q078 4択 | 実技

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。(確認78)(類似論点確認 2)

1. 消防設備士試験の実技試験は、写真・イラスト・図面等による記述式で行われる。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 消防設備士試験の実技試験は、写真・イラスト・図面等による記述式で行われる。

解説：実技は名称・用途・判断などを問う記述式で、現場施工の実演ではない。

要点：実技

Q079 ○ × | 試験時間

消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。【79】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の試験方法では乙種1時間45分、甲種特類以外は3時間15分。

要点：試験時間

Q080 ○ × | 合格基準

消防設備士試験は、筆記全体で60%以上なら、実技が0点でも合格できる。【80】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。

要点：合格基準

Q081 4択 | 定義

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認81）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：3. 工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。

解説：消防設備士の対象は消防用設備等または特殊消防用設備等。

要点：定義

Q082 ○ × | 維持管理

消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。
【82】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：消防用設備等は火災時に機能することが前提であり、点検・整備の対象となる。

要点：維持管理

Q083 ○ × | 出題範囲

消防設備士乙種では、法令分野は一切出題されない。【83】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士の学習では、法令、基礎知識、構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。

要点：出題範囲

Q084 4択 | 法令

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認84）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。

解説：乙種筆記の消防関係法令は、共通6問と類別4問に区分される。

要点：法令

Q085 ○ × | 法令 / 問題数

消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。
【85】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の問題数表では、乙種の消防関係法令は共通6問、類別4問。

要点：法令 / 問題数

Q086 ○ × | 問題数

消防設備士乙種では、筆記30問の中に実技5問が含まれる。【86】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。

要点：問題数

Q087 4択 | 免除

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認87）（類似論点確認 2）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士試験で一部免除を受けても、試験時間は必ず全員同じである。

答え・解説

正答：2. 消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

解説：公式案内では、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

要点：免除

Q088 ○ × | 受験手続

受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。【88】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、受験票に顔写真を貼付していないと受験できないとされる。

要点：受験手続

Q089 ○ × | 受験

消防設備士試験は、東京の1会場でしか受験できない。【89】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。

要点：受験

Q090 4択 | 受験

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認90）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：1. 消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。

解説：公式案内では全国どこの試験会場でも受験できるとされる。

要点：受験

Q091 ○ × | 手数料

消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。【91】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：2026年6月確認時点の公式案内では、乙種4,400円。改定があり得るため公開時は再確認する。

要点：手数料

Q092 ○ × | 合格発表

消防設備士試験の結果通知書には、合否だけが記載され正答率は一切示されない。【92】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の結果通知書には、合否と正答率が記載される。

要点：合格発表

Q093 4択 | 受験手続

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認93）（類似論点確認2）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：2. 消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。

解説：公式案内では、同一試験日に同じ種類を2回以上受験できないとされる。

要点：受験手続

Q094 ○ × | 日程

消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。【94】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：日程・受付期間は支部ごとに異なるため、受験地ごとの確認が必要。

要点：日程

Q095 ○ × | 基礎知識

消防設備士乙種の基礎的知識は、すべての類で数学だけが出題される。【95】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の基礎的知識は、類に応じて電気または機械の内容が出題される。

要点：基礎知識

Q096 4択 | 鑑別

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認96）（類似論点確認 2）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：2. 消防設備士の点検・整備では、設備の名称だけでなく、機能と異常の見分け方も重要である。

解説：鑑別等では名称・用途・異常判断が問われるため、機能理解が必要。

要点：鑑別

Q097 ○× | 安全

消防用設備等の不良を放置すると、火災時の早期発見・初期対応が遅れるおそれがある。【97】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：点検・整備の目的は、火災時に設備が確実に働く状態を維持すること。

要点：安全

Q098 ○× | 免状 / 業務範囲

消防設備士乙種は、工事・整備・点検のすべてを甲種と同じ範囲で行える。【98】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士免状には甲種と乙種があり、甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検を行える。

要点：免状 / 業務範囲

Q099 4択 | 受験資格

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認99）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。

答え・解説

正答：4. 消防設備士乙種は、受験資格の制限がなく、どなたでも受験できる。

解説：甲種には受験資格が必要だが、乙種は受験資格がない。

要点：受験資格

Q100 ○× | 類別

消防設備士免状は類ごとに扱える消防用設備等が限定される。【100】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：類ごとに取り扱う設備が限定されるため、目的の類別の免状が必要。

要点：類別

Q101 ○ × | 問題数

消防設備士乙種の筆記試験は45問で構成される。【101】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士乙種の筆記試験は30問で構成される。

要点：問題数

Q102 4択 | 実技

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認102）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防設備士乙種の実技試験は製図2問のみで構成される。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 消防設備士乙種の実技試験は鑑別等5問で構成される。

解説：乙種の実技は鑑別等5問。製図は甲種の実技に含まれる。

要点：実技

Q103 ○ × | 試験方式

消防設備士試験の筆記試験は、全種で四肢択一式のマーク・カード方式で行われる。【103】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の試験方法では、筆記はマーク・カードを使う四肢択一式。

要点：試験方式

Q104 ○ × | 実技

消防設備士試験の実技試験は、現場で実際に設備を施工する作業試験である。【104】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の実技試験は、写真・イラスト・図面等による記述式で行われる。

要点：実技

Q105 4択 | 試験時間

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認105）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。
3. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として3時間15分である。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：2. 消防設備士乙種の試験時間は、原則として1時間45分である。

解説：公式の試験方法では乙種1時間45分、甲種特類以外は3時間15分。

要点：試験時間

Q106 ○ × | 合格基準

消防設備士試験の合格基準は、筆記の各科目40%以上・筆記全体60%以上に加え、実技60%以上である。【106】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：特類以外は筆記と実技の両方で基準を満たす必要がある。

要点：合格基準

Q107 ○ × | 定義

工事整備対象設備等とは、建築物の内装仕上げ材だけを指す。【107】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。工事整備対象設備等とは、消防用設備等又は特殊消防用設備等のことである。

要点：定義

Q108 4択 | 維持管理

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認108）（類似論点確認2）

1. 消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 消防用設備等は、設置後も有効に機能するよう維持管理される必要がある。

解説：消防用設備等は火災時に機能することが前提であり、点検・整備の対象となる。

要点：維持管理

Q109 ○ × | 出題範囲

消防設備士の学習では、法令・基礎知識・構造・機能・整備を分けて理解することが重要である。【109】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：乙種筆記には消防関係法令、基礎的知識、構造・機能・整備が含まれる。

要点：出題範囲

Q110 ○ × | 法令

消防関係法令は、すべての類で完全に同じ内容だけが出題される。【110】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防関係法令には、各類に共通する内容と類別ごとの内容がある。

要点：法令

Q111 4択 | 法令 / 問題数

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認111）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
2. 消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：2. 消防設備士乙種の消防関係法令は、共通6問と類別4問で合計10問である。

解説：公式の問題数表では、乙種の消防関係法令は共通6問、類別4問。

要点：法令 / 問題数

Q112 ○ × | 問題数

消防設備士乙種では、筆記30問とは別に実技の鑑別等5問が出題される。
【112】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：実技は筆記とは別枠で5問。

要点：問題数

Q113 ○ × | 免除

消防設備士試験で一部免除を受けても、試験時間は必ず全員同じである。
【113】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験の一部免除を受ける場合、免除される問題数に応じて試験時間が短縮される。

要点：免除

Q114 4択 | 受験手続

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認114）（類似論点確認 2）

1. 受験票に顔写真がなくても、当日の口頭確認だけで必ず受験できる。
2. 受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 受験票に顔写真を貼付していない場合、受験できない。

解説：公式案内では、受験票に顔写真を貼付していないと受験できないとされる。

要点：受験手続

Q115 ○ × | 受験

消防設備士試験は、中央試験センターおよび道府県支部で実施される。
【115】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：消防設備士試験は全国の中央試験センター・道府県支部で実施される。

要点：受験

Q116 ○ × | 受験

消防設備士試験は、住民票のある都道府県でしか受験できない。【116】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験は、全国どこの試験会場でも受験できる。

要点：受験

Q117 4択 | 手数料

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認117）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：3. 消防設備士乙種の試験手数料は、公式案内では4,400円とされている。

解説：2026年6月確認時点の公式案内では、乙種4,400円。改定があり得るため公開時は再確認する。

要点：手数料

Q118 ○ × | 合格発表

消防設備士試験の結果通知書には、可否と正答率が記載される。【118】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式案内では、受験者全員に可否と正答率を記載した試験結果通知書を送付するとされる。

要点：合格発表

Q119 ○ × | 受験手続

消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類を何度でも受験できる。【119】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士試験では、同一試験日に同じ種類の試験を2回以上受験することはできない。

要点：受験手続

Q120 4択 | 日程

消防関係法令：共通について、正しい記述はどれか。（確認120）（類似論点確認 2）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：3. 消防設備士試験の試験日程・受付期間は、受験する支部ごとに異なる。

解説：日程・受付期間は支部ごとに異なるため、受験地ごとの確認が必要。

要点：日程